



(第4期) 第7回まつもと子ども未来委員会の報告

平成30年8月31日

第4期の第7回まつもと子ども未来委員会は、平成30年8月26日(日)あがたの森文化会館で行いました。この日は、33人の委員のうち24人の委員が出席し、進行は委員長、副委員長が行いました。

1 松本市の交通ルールについて

(1) 学習会

まず、松本市の自転車や自動車の交通マナーについて、松本市交通安全・都市交通課の課長、課長補佐から教わりました。



●○ 学習したこと ○●

【自転車について】

- 松本市内の自転車事故のうち、けがをした人がいた事故の数は約8,000件。けがのない事故の数は、その7倍とも言われている。松本市の自転車事故は、県内でも多い。
- 小学生から高校生までの子どものうち、自転車事故が一番多いのは高校生。特に、高校1年生の事故は、新しい生活になじんできた5月~6月が多い。
- 自転車事故の原因のほとんどが、車ではなく、自転車に乗っている人のルール違反。
- 自転車は車の仲間なので、守らなければいけないルールがたくさんある。むずかしいかもしれないけれど、分からなくなったら、自転車から降りて、「歩行者」になると良い。

【自動車(松本走り)について】

- 「松本走り」とは、松本の車の運転のマナーの悪さを言う言葉で、例えば、向かいから車が来ているのに、むりやり右に曲がったり、信号が赤から青に変わる直前に発進して(信号無視して)右に曲がったりすることを言う。
- 「松本走り」の原因は、右折する車に道をゆずらないこと(気づき不足)や、右折する車の「このまま進めないと後ろの車に迷惑がかかってしまう」と遠慮する気持ち。

【まとめ】

- 自転車の事故も「松本走り」も、改善するには「ゆすり合い」が大切。まだ車を運転できない子どもでも、自転車を「運転する」ときに、自分の命を人任せにしないで、「止まる・見る・がまんする」を合言葉に、自分で安全確認することが大切。

(2) 話し合い

次に、松本の交通マナーを良くするにはどうしたら良いか、分からないことは課長補佐に質問しながら、話し合いました。

●○ みんなからの意見（一部） ○●

【良いところ】

- ゆずり合い運転ができている人もいる。

【悪いところ】

- 横断歩道^{おうだんほどう}で手を挙^あげてても車が止まってくれない。
- 横断歩道ではないところを渡^{わた}る人がいる。
- 車からタバコの吸いながらなどをポイ捨てする人がいる。



【マナーを良くするために市や大人にしてほしいこと】

- 一人一人の意識^{いしき}を向上^{こうじょう}するために、市からの呼びかけを増^ふやす、パンフレットを配^{くふう}る場所を工夫^{くふう}する、学校などでの交通安全講習会を増^ふやす（勉強したことは、子どもから保護者^{ほごしや}に伝える）。
- 「〇〇すると罰^{ばつ}せられます。」などの看板^{かんばん}を立てる。
- ティッシュ配^{くふう}りをする。
- 大人には、子どもの見本^{けんぽん}になってほしい。



【マナーを良くするために子どもたちでもできること】

- 交通ルールやマナーを守る。
- 家族や友だちがルール違反^{いはん}していたら、注意する。
- ポスターを作る。

みんなからの意見を発表した後、課長と課長補佐からコメントをもらいました。

【課長から】

- みんなからの意見には、大人でもハッとさせられる意見がありました。
- 既に市で取り組んでいることの見解もありましたが、市はどんなことをやっているのかということを実際に見ながら、みんなのやわらかい頭で考えると、新しい考えが出てくるのではないかなと思います。

【課長補佐から】

- 事故を起こしたということは、法律違反^{ほうりつ}をしたということです。相手に許^{ゆる}してもらえば、それでいいわけではありません。
- 実は、大人より子どもの方が交通ルールを守っています。みんなが大人になったとき、ルールを守るのが当たり前になってほしいです。いま、ルール違反に気づけているみんななら、できると思います。

2 さっぽろ 札幌子ども交流事業の報告

次に、7月31日から8月3日までの4日間、札幌市に行って、札幌市と奈井江町ないえちやうの子どもたちと交流事業をしてきた委員10人から交流事業の報告がありました（報告に使った模造紙は、別の紙もぞうしに印刷してあります）。



●○ 報告があった主な内容 ○●

- 4日間で、市街地の散策や博物館いちばや市場など、札幌市内を見学して学んできた。
- 札幌駅前では、ティッシュ配りを行い、松本市のことをPRしてきた。
- 2日目に行われた、札幌市と奈井江町ないえちやうの子どもたちとの交流事業では、札幌市の定山溪じやうざんけい温泉エリアのPRをテーマに、定山溪温泉のホテルや公園などの見学、カヌー体験をして、みんなで意見交換をした。住んでいるまちがちがうと、出てくる意見にもちがいがあって、新しく気づくことがあった。
- 4日間で考えたことは、PRについて。松本でも札幌でも、外国人観光客が増えている反面、日本人観光客が減へっているのではないかと思った。そこで、SNS を利用したりホームページの内容を充実させたりすることで、日本人、特に若者の観光客が増え、観光地のさらなる発展につながるのではないかと考えた。

3 副委員長について

3人いるうちの1人の副委員長が、事情があって委員会を退会たいかいしました。みんなで話し合ったところ、残っている委員長・副委員長の欠席かきが重なって、進行する人がいなくなるとこまるので、新しく副委員長を決めることにしました。

新しい副委員長に、小学6年生の委員2名、中学2年生の委員1名が立候補りっこうほしたので、自分のアピールポイントを発表してもらいました。

●○ 立候補した人のアピールポイント ○●

- Aさん・・・まとめるのが得意。児童会の経験を活かして、副委員長の仕事ができる。
- Bさん・・・小学生の意見もうまくまとめられる自信がある。委員会に欠席しない。
- Cくん・・・委員会に欠席しない。去年副委員長をやっていたので、経験を活かせる。

アピールポイントを聞いたあと、出席した委員全員で多数決をしました。その結果、新しい副委員長は、Bさんをお願いすることになりました。

4 提言に向けた準備

最後に、11月25日（日）の提言に向けた準備について、説明がありました。

これからは提言に向けて、「活動紹介グループ」「^{しょうかい}ごみ問題についての提言グループ」「交通ルールについての提言グループ」の3つに分かれて準備してはどうか、事務局から提案がありました。この日は、グループ分けをするまでの時間がなかったので、提案だけでしたが、次回までに、このグループ分けでいいかどうか、それぞれで考えてくることになりました。

次回の委員会は、9月9日（日）にあがたの森文化会館で行います。

札幌市子ども交流事業

7月31日から8月3日までの3泊4日

★1日目

出発式 → 松本空港発 → 新千歳
空港着 → 札幌市内散策 → 札幌駅
でティッシュ配り → テレビ塔見学

★2日目

2枚目に書いてあります

★3日目

札幌中央卸売市場着 → 青果・
まぐろ競り見学 → 大倉山ジャン
プ台見学 → オリンピックコミュニー
ジアム見学 → 北海道大学見学 →
雪印メグミルクと酪農と乳の歴
史館



大倉山
ジャンプ台
にて



北海道大学
クラーク博士像の
前にて

★4日目

北海道博物館見学 → 新千歳空
港着 → おみやげタイム → 新千歳
空港発 → 松本空港着 → 解散式

札幌奈井江町子ども交流

2日目

～3まち子ども交流～

内容

オリエンテーション
体験・見学(カヌー体験)
グループワーク(意見交換)



グループ発表(提言)



カヌー体験



かっぽんといっしょに



カヌーを終えて

提言の内容

見学や体験をして印象に残ったこと。気づいたこと。
みんなが温泉ホテルの支配人だったら、どんなアイデアでホテルをPRするか、話し合う。⇒キャッチコピー、スタッフの優しい対応と客が来たとき明るいふいんきであればまたくると思う。
たくさんのおひとりが定山溪に来て楽しんでいい思い出が残るようにどんな魅力づくりや工夫⇒幅広い年代が楽しめる体験 ガイド無料サービスと年代に合わせたグッズの配布をしたらいいと思う。
どんなPRをするか？
★自分たちにできること⇒ロコミ、子どもがガイドをする、新聞配り、ポスターを作る
★大人や役所と協力してできること、やっぱりいいと思うこと⇒空港のTVで突然CM流す、ティッシュ配り

見学した施設の紹介

<飛行機の中(左側)>



飛行機からは、佐渡ヶ島、男鹿半島、田畑が見えた。

機内では、昼食を食べたり、新聞を読んだりして、ゆったり過ごした。

<大通公園>



大通公園では、ガイドさんの話を聞き、明治元年には人口が0人だった札幌に今では松本市の8倍の196万人が住んでいる事を知った。

<旧道庁前>



旧道庁では、ガイドさんの話を聞いた。昔は棋で天気予報を教えていた。

(図) <もり(赤)>

<雪(みどり)>



<北海道大学総合博物館(マンモス)>

北海道大学総合博物館では、さわれる化石コーナなどがあり、楽しい時間をすごした。また、色々な研究紹介などがあり色々な事を知った。



<左:テレビ塔(昼)>

<右:テレビ塔からの夜景>

テレビ塔は、番地を中心にあって、テレビ塔を中心に、10mの間かくで町が区切られている。

テレビ塔からの夜景は日本三大夜景の1つに選ばれている。

<オリンピックミュージアム(スノーランゲージ)>



オリンピックミュージアムでは、歴代のオリンピックのメダルの複製がカざってあった。また、スキージャンプ、ボブスレー、クロスカントリーなどの体験型ゲームがあった。



<ティッシュ配の札幌駅前>

ティッシュ配りは、積極的に他人に助けられる人まで構えなかった。受け取ってくれたのは、中高生がらおじいちゃん・おばあちゃん、子どもぐれの人が多かった。

